

教員推薦図書 2021年8月

推薦教員	国際学科 准教授 水谷 清佳 先生	<p>【推薦コメント】</p> <p>東京オリンピック開幕早々、ボランティア用弁当約4千食が手つかずのまま破棄されたニュースは記憶に新しいと思います。まだ食べられるのに破棄されてしまう食べもの「食品ロス」。本書は食品ロスの現状、原因、取り組み、身近な対策を具体的なデータとともにイラスト付きで分かりやすく説明しています。</p> <p>しかし、表紙やイラストの可愛らしさとは裏腹に「世界では、生産量の3分の1にあたる13億トンが毎年捨てられ、日本では、東京都民1300万人が1年間に食べる量が捨てられています」というショッキングな文言にはじまり、日本の食料自給率の低さ、子どもの貧困、未出荷の野菜破棄、食品ロス原因の半分は家庭、他国の2倍の食品ロス、食品業界の「期限」ルール、対策の立ち遅れなど…日本の残念な現実を突きつけられることとなります。</p> <p>食品ロスは日本のみならず世界でも深刻な問題の1つです。SDGsでは目標12に「つくる責任 つかう責任」を掲げていますが、日本は4段階中最も低い評価とのこと。本書は食品に対する私たちの意識変化と小さな行動の重要性、そして責任に気づかせてくれる一冊です。</p> <p>本書で基礎知識を得たら、佐藤順子編『フードバンクー—世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策』（明石書店 2018年 請求番号611.3/Sat）も是非手に取ってみてください。各国の対策の比較や日本、フランス、アメリカ、韓国の事例研究を通してより広い視点から食品ロスについて考えてみてもらえればと思います。</p>
書名	捨てられる 食べものたち -食品ロス問題がわかる本-	
著者名	井出 留美 著	
出版社	旬報社	
請求記号	903018950	
資料ID	611.32 lde	